

東京国立 博物館 ニュース

展示と催し物案内
第774号

2023

9・10・11



「横尾忠則 寒山百得」展
浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念 特別展「京都・南山城の仏像」
特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」／特別展「本阿弥光悦の大字宙」
建立900年 特別展「中尊寺金色堂」／東京国立博物館アンバサダーのご紹介／博物館でアジアの旅

表紙の名品

「柳橋水車図屏風」

裏表紙に
掲載してるほ！





①



②



③

① 横尾忠則《2022-06-02_AM》2022年
拾得の箒が寒山の毛髪になって上下に連結したふたり

② 横尾忠則《2022-08-10》2022年
仏塔のような“FUSION”からパラシュートで降りる小さな者たち

③ 横尾忠則《2022-09-27》2022年
怪盗紳士アルセーヌ・ルパン(?)の横にはトイレトペーパーが

「横尾忠則 寒山百得」展

表慶館 9月12日(火)～12月3日(日)

現代美術家・横尾忠則の画家活動において、最大のシリーズ作品である「寒山拾得」を一挙公開します。

奇妙な笑いを浮かべ、常軌を逸した振る舞いで知られる寒山拾得は、仏教では真理を目覚めさせる「散聖」ともされ、古くから多くの知識人を惹きつけ、東洋においては伝統的な画題となりました。

横尾は俗世を離れたアトリエの中で、テーマである巻物を持つ寒山と箒を持つ拾得の姿を、さまざまに形を変えていながら、さながら広大な時空を縦横無尽に冒険するかのよう描き出しています。時には歴史上の人物と重なり、さらには現世を生きる人々とも邂逅しています。百面相のように変貌していく寒山拾得を通して、まさに自由な世界を実感していただけるでしょう。

(松嶋雅人)

観覧料：一般1,600円(1,400円)、大学生1,400円(1,200円)、高校生1,000円(800円)

※()内は前売料金

※前売券は9月11日(月)まで、展覧会公式サイト等で販売。

※中学生以下、障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に学生証、障がい者手帳等をご提示ください。

※事前予約不要です。混雑時は入場をお待ちいただく場合がございます。

※本展チケットで、関連企画 特集「東京国立博物館の寒山拾得図」をはじめ、総合文化展をご覧ください。

※詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。

展覧会公式サイト <https://tsumugu.yomiuri.co.jp/kanzanhyakutoku/>

関連企画

特集

「東京国立博物館の寒山拾得図 —伝説の風狂僧への憧れ—」

本館特別1室 9月12日(火)～11月5日(日)

中国・唐時代に生きた伝説的な詩僧、寒山と拾得の奇行ぶりは「風狂」と捉えられ、とくに禅宗において重要視されて、画題として数多く描かれています。

本特集は、東洋の伝統的な画題である「寒山拾得図」に注目して、人びとがその世界観をどのように見出してきたかを問うものです。当館が誇る中国、日本で描かれた寒山拾得図をまとめてご覧いただき、各時代におけるさまざまな表現を通して、人びとが寒山拾得を見つめた様相をご紹介します。

(松嶋雅人)



(拾得図)



(寒山図)



●寒山拾得図(禅機図断簡)

因陀羅筆、楚石梵琦賛 中国 元時代・14世紀
展示期間：9月12日(火)～10月9日(月・祝)

軽快な線にみえながら、堂々とした高い技巧の筆さばきです

●寒山拾得図

伝顔輝筆 中国 元時代・14世紀
展示期間：10月11日(水)～11月5日(日)

三日月のような目と口で気味悪く笑うふたり



(背面)

鮮やかな彩色や細く切った金箔で
つくられた文様は実に華麗です

●多聞天立像(四天王のうち)

平安時代・11～12世紀

京都・浄瑠璃寺蔵

近衛兵のような凛々しい立ち姿に、
高い品格が感じられます

浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念

特別展「^{きょうと みなみや ましろ} 京都・南山城の仏像」

本館特別5室 9月16日(土)～11月12日(日)

南山城とは、京都の最南部の地域をさす呼び名です。仏教伝来から間もない7世紀ごろから寺院が営まれ、京都と奈良の両方からの影響を受けて仏教文化が育まれてきました。

南山城の寺院のひとつ、^{じょうるりじ} 浄瑠璃寺の四天王立像は平安時代屈指の名作で、本展では広目天立像と多聞天立像を公開します。端正な顔立ちで、体の動きも控えめです。さらに衣やよろいには、赤や緑などの鮮やかな彩色の上に、糸のように細く切った金箔で文様が施されています。このような優雅で繊細な表現に、当時この地に莊園や別邸を持っていた貴族の好みが見え隠れしています。

仏教美術の宝庫ともいえる南山城の優れた
仏像の数々をぜひご堪能ください。(増田政史)



観覧料：一般1,500円(1,300円)、大学生800円(600円)、高校生500円(300円)

※()内は前売料金 ※前売券は9月15日(金)までの間、展覧会公式サイト等で販売。

※中学生以下、障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に学生証、障がい者手帳等をご提示ください。

※事前予約不要です。混雑時は入場をお待ちいただく可能性がございます。

※本展チケットで、総合文化展をご覧いただけます。

※詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。 展覧会公式サイト <https://yamashiro-tokyo.exhn.jp/>

建立900年

特別展「^{ちゅうそんじこんじきどう} 中尊寺金色堂」

本館特別5室 2024年1月23日(火)～4月14日(日)

国宝・中尊寺金色堂は奥州藤原氏の初代・^{ふじはらのきよひら} 藤原清衡(1056～1128)が建立した東北地方現存最古の建造物で、2024年に天治元年(1124)の上棟から900年を迎えます。

これを記念して開催する本展では、清衡が眠る堂内中央壇に
安置される国宝の仏像11体すべてを初めて一堂に展示するほか、

きらびやかな堂内^{しやうこんぐ} 荘嚴具の数々を
ご紹介します。また、会場内の大型ディスプレイでは8KCGにより
金色堂を原寸大で再現します。世界遺産平泉の黄金文化の粋をぜひ
ご体感ください。(児島大輔)



●^{あみだにょらいざう} 阿弥陀如来坐像

平安時代・12世紀

岩手・中尊寺金色院蔵

中央壇の中央に安置される、いわば
金色堂のご本尊。ふっくらと穏やか
かで優美な姿です

特別展「^{ほんあみこうえつだいいうちゅう} 本阿弥光悦の大宇宙」

平成館特別展示室 2024年1月16日(火)～3月10日(日)

^{ほんあみこうえつ} 本阿弥光悦(1558～1637)はさまざまな造形にかかわり、傑出した品々
を数多く生み出しました。そうした光悦の世界は大宇宙(マクロコスモス)
のごとく深淵で、その全体像をたどることは容易ではありません。

そこで、本展では、光悦自身の手による書や作陶などにあらわれた内
面世界と、光悦が信仰した当代の^{はっけまちしやう} 法華町衆の社会についても注目します。
篤い信仰心に裏打ちされた美意識でつくり上げられた諸芸の優品の数々
は、私たちの目にどのように映るのか。本展を通じて紹介します。

(松嶋雅人)



●^{ふなばしきまきえすすりばこ} 舟橋時絵硯箱

本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀

大胆な図柄が印象的。金、銀、鉛の
巧みなバランス感覚が絶妙です



(部分)

●^{つるしたえさんしやうろつかせんわかん} 鶴下絵三十六歌仙和歌巻

本阿弥光悦筆/俵屋宗達下絵

江戸時代・17世紀 京都国立博物館蔵

鶴の群れを金銀で彩った料紙装飾
に、光悦の書がしなやかに羽ばたいて
います

展覧会公式サイト: <https://koetsu2024.jp/>

展覧会公式サイト: <https://chusonji2024.jp/>

この秋必見の展覧会、いよいよ開幕！

研究員おすすめ の作品をご紹介します

平安時代前期に成立したやまと絵は、以後さまざまな変化を遂げながら連綿と描き継がれてきました。本号では、展覧会を担当する研究員4名が、自分の専門分野ではない作品のなかから、「これぞやまと絵！イチ押し作品」を1点ご紹介しします。専門分野外だからこそこの見かた、おすすめしたいポイントを解説します。

やまと絵とは？

やまと絵は、中国に由来する唐絵や漢画といった外来美術の理念や技法との交渉を繰り返しながら、独自の発展を遂げてきました。四季の移ろい、月ごとの行事、花鳥・山水やさまざまな物語など、あらゆるテーマが描かれてきました。

鎌倉時代



●一遍聖絵 巻第十

法眼円伊筆 鎌倉時代・正安元年(1299) 神奈川・清浄光寺(遊行寺)蔵
展示期間：11月7日(火)～12月3日(日) ※場面替えあり
※10月11日(水)～11月5日(日)まで、巻第七(当館蔵)を展示します。

時宗の開祖・一遍上人が各地を遊行した様子を表した絵巻です。巻第十には、日本三景のひとつ、広島県・宮島の嚴島神社が登場します。これは弘安10年(1288)に行われた臨時祭の情景です。社殿は実際とは違った形で描かれていますが、中央の高舞台で女性が舞う姿を廻廊から眺める人びとの楽しむ様子が伝わってきます。

恵美千鶴子(日本書跡)

恵美研究員
イチ押し！

時宗の開祖、
一遍の伝記を描いた絵巻

平安時代



●源氏物語絵巻 夕霧

平安時代・12世紀 東京・五島美術館蔵 展示期間：11月21日(火)～12月3日(日)
※10月11日(水)～10月22日(日)まで関屋・絵合、10月24日(火)～11月5日(日)まで柏木二、
11月7日(火)～11月19日(日)まで横笛(いずれも愛知・徳川美術館蔵)を展示します。

光源氏の息子の夕霧は、父に似ない一途な愛妻家でしたが、ふいに落葉宮に心を奪われてしまいます。落葉宮のほうから届いた手紙を読む夕霧の背後から、妻の雲居雁が手紙を奪おうと近づく緊迫の瞬間です。恋する男、嫉妬する女、不安そうに見守る使用人たち。いずれも同じような引目鉤鼻ですが、見る者の想像力によって、各人の表情が見えてきます。

猪熊兼樹(工芸史)

猪熊研究員
イチ押し！

想像力を掻き立てる、
緊迫の場面

室町時代



「尚」、「男」の字

●男山時絵硯箱 室町時代・15世紀

月が出た山、裾野に咲く女郎花、菊、桔梗などの秋草。穏やかなやまと絵山水と思って見ていると、左の松の根元には岩と一体化した「尚」「男」の文字が！鎌倉時代の『続後撰和歌集』に収録された、後久我太政大臣の和歌、「なほ照らせ代々にかはらず男山 仰ぐ峰より出る月影」がネタ元です。室町時代の時絵は和歌を典拠にしたデザインが好まれました。男山は石清水八幡宮がある京都府南部の山です。

古川攝一(日本絵画)

古川研究員
イチ押し！

和歌を
モチーフにした、
室町時代時絵の優品

鎌倉時代



●伏見天皇宸翰願文

伏見天皇宸筆 鎌倉時代・正和5年(1316) 兵庫・黒川古文化研究所蔵
展示期間：10月11日(水)～11月5日(日)

歴代天皇のなかでも能書として知られる伏見天皇(1265～1317)による雄渾な書が見どころの本作品ですが、その下絵にもご注目。藤の花の箔絵は同時代の「春日権現験記絵巻」「玄奘三蔵絵巻」の見返しにも見られます。これらの作品を担った高階隆兼がこの願文下絵も担当したのかもしれませんが。絵と書が非常に近い距離にあった時代の作品です。

土屋貴裕(日本絵画)

土屋研究員
イチ押し！

流麗な書と金銀の
藤が美しい名筆

観覧料：一般2,100円、大学生1,300円、高校生900円

※本展は土・日・祝日のみ事前予約制(日時指定)です。

※金曜・土曜は午後8時まで開館。 ※入館は閉館の60分前まで。

※中学生以下、障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に学生証、障がい者手帳等をご提示ください。

※本展チケットで、本館特集展示をはじめ総合文化展をご覧いただけます。

※詳細は情報は展覧会公式サイトをご覧ください。 展覧会公式サイト <https://yamatoe2023.jp/>

お問合せ：050-5541-8600 (ハローダイヤル)

一緒に見たい、本館特集展示

本館(総合文化展)では、特集「仏画の中のやまと絵山水」(3-1、3-2室→5ページ)と特集「近世のやまと絵—王朝美の伝統と継承—」(7、8-2、特別2室→16ページ)、も同時期に開催しています。特別展とあわせてご覧ください。



特集 仏画の中の やまと絵山水



本館3-1、3-2室 9月20日(水)～12月3日(日)

特別展「やまと絵—受け継がれる王朝の美—」(→4ページ)の開催に合わせ、仏画に見られる山水表現に注目します。山水は山や川といった自然を描いたものです。日本の風景に由来する穏やかなやまと絵の山水は、仏の世界を彩る背景として仏画に取り入れられるようになりました。厳かな仏の姿と美しい自然景が融合した画面は、鑑賞者を仏の世界に誘います。世俗画を主に描いた宮廷絵師たちが育んできたやまと絵山水を、仏画を描く絵師たちはどのように描いたのか、仏画に描かれた山水は、やまと絵の展開を考える上でも示唆に富みます。本特集では模本も活用しながら、その具体例をご紹介します。(古川攝一)

神々しき春日野を見晴らす 曼荼羅図

かすがほんじぶつまんたらず
春日本地仏曼荼羅図

鎌倉時代・13世紀

展示期間:9月20日(水)～10月29日(日)

奈良・春日大社に祀られる神々が、仏の姿として春日野の風景とともに描かれます



平安時代の美しき やまと絵山水の模写

びょうどういんほうおうどうへき かもほん
平等院鳳凰堂壁画(模本)
じょうほんちゅうしゅうず
上品中生図

田中訥言模 江戸時代・19世紀

原本:平安時代・11世紀 平等院所蔵

展示期間:9月20日(水)～10月29日(日)

阿弥陀如来とともに描かれた美しいやまと絵山水。原本はその初期作例として重要です

(部分)

迎えを待つ人々を 浄土へと導く

あみだしょうじゆらいごうず
阿弥陀聖衆来迎図

鎌倉時代・14世紀

展示期間:10月31日(水)～12月3日(日)

背景にある美しい自然は、極楽往生を願う人びとの理想の風景を表しています



特集 創立80周年記念 常盤山文庫の名宝

東洋館8室 8月29日(火)～10月22日(日)

公益財団法人常盤山文庫は、初代理事長の菅原通濟(在任1954～81)が古美術の蒐集をはじめた昭和18年(1943)を創立の年とし、80周年を迎えました。

そのコレクションは、通濟の蒐集による禅僧の墨跡と中国宋・元時代の絵画を礎に、通濟長男の壽雄氏がこれを拡充し、研究と普及につとめました。さらに、次男の春雄氏蒐集による工芸作品が加わり、国内有数の質の高さを誇ります。

平成30年(2018)より、コレクションの多くが順次当館に寄託され、展示や研究に活かされています。創立80周年を記念して開催する本特集は、コレクションを当館で活用する意義とともに、蒐集の歴史をたどるものです。どうぞお楽しみください。(三笠景子)

美麗なる南宋絵画の名品

まつり かず
◎茉莉花図

伝趙昌筆

中国 南宋時代・12～13世紀

展示期間:8月29日(火)～9月24日(日)

足利将軍家のコレクション・東山御物と伝わる作品。緻密な彩色表現に目を奪われます



輝く龍泉窯最盛期の 青磁花入

せいじ ほうおうみみはなれ
青磁鳳凰耳花入

中国・龍泉窯 南宋～元時代・13世紀

箱書 金森宗和

展示期間:9月26日(水)～10月22日(日)

南宋時代の龍泉窯、最盛期に位置づけられる作品。茶人・金森宗和所持と伝わるものです



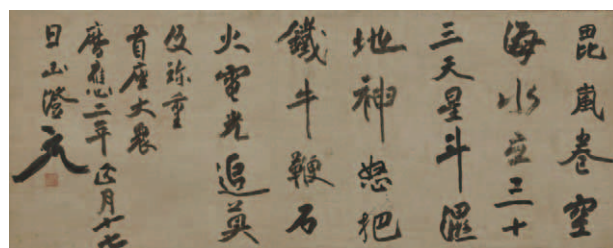
渡来した禅僧、最期の書

ゆい げ かんわり ぼくせき
◎遺偈(棺割の墨跡)

清拙正澄筆 南北朝時代・暦応2年(1339)

展示期間:9月26日(水)～10月22日(日)

来日して禅僧や武士たちに大きな影響を与えた清拙正澄が死期に臨んで筆をとったものです



※掲載作品はすべて常盤山文庫所蔵です。



Pick up!

本館

当時のチベット文化を
今に伝える多様な資料群

河口慧海請来風俗資料

8月22日(火)～10月9日(月・祝)

14室 特集「日本初のチベット探検
―僧河口慧海の見た世界―」



河口慧海請来風俗資料

19～20世紀 宮田恵美氏・上原スミ氏・
水谷マサ氏寄贈

えられた
点も貴重
です。
(西木政統)

鎖国下のチベットを探検し、日本人として初めて首都ラサに到達した僧・河口慧海(1866～1945)。仏法を求め、密入国の危険を冒してまで果たした探検では、仏典や仏像等にとどまらない慧海の多岐にわたる関心が明らかになりました。

風俗資料一式は、みずから3箱に分類して小札を貼り整理したもので、この箱には首飾りや腕輪などチベットの女性の装身具が納められます。大きな反響を呼んだ『チベット旅行記』でも現地女性の身なりに詳しく触れており、とりわけ興味を抱いたようです。帰国後、東京美術学校(現東京藝術大学)で展示された当時の状態で伝

本館

多くの想いを預かり、
「冬木小袖」美しき姿へ

重文 小袖 白綾地秋草模様

10月3日(火)～12月3日(日)

10室 衣装



◎小袖 白綾地秋草模様
尾形光琳筆
江戸時代・18世紀

京都の画家・尾形光琳(1658～1716)は、さまざまな工芸のデザインを考案したことで知られています。模様を直接描いた小袖が完全な形で遺されているのはこの1点のみです。江戸に活躍の場を広げようとした光琳が深川の材木商・冬木屋に世話になった際に、そのお礼に冬木屋の妻のために描いたと伝えられています。当時、高名な画家によって直接描かれた小袖が、裕福な町人の間で大流行しました。この小袖(通称「冬木小袖」)は明治10年(1877)に当館所蔵となりました。が、当時は、着物の形も保てないくらいに傷んでいました。この度、クラウドファンディングで多くの寄附をいただき、修理が叶いました。今回は修理後、初めての公開となります。(小山弓弦葉)

東洋館

奏でる音色を想起させる
鮮やかな石窟壁画

衆人奏楽図

9月26日(火)～11月12日(日)

3室 西域の美術



衆人奏楽図

中国・ベゼクリク石窟第33窟
高昌ウイグル期・10～11世紀
大谷探検隊将来品

※本作品は博物館でアジアの旅(↓2ページ)関連作品です。

ベゼクリク石窟は、『西遊記』でおなじみの火焰山の麓につくられた石窟寺院です。しかし7世紀前半、三蔵法師がこの地を訪れたとき、この壁画はもちろん、石窟寺院すらありませんでした。9世紀半ばにウイグル人がトルファンに移り住むと、10世紀にはこの地に石窟寺院を造営し、独自の仏教美術を開花させました。

100年ほど前に大谷探検隊が将来したこの壁画断片からも、異邦人たちが横笛、縦笛、シンバル、太鼓、そして四絃琵琶などを使って演奏するシルクロードのにぎやかな音楽が聞こえてくるかのようです。

(勝木言一郎)

東洋館

観る人を魅了する、
気品ある花鳥画世界

重文 梅花双雀図軸

10月31日(火)～11月26日(日)

8室 特集「中国書画精華―日本におけるコレクションの歴史―」



◎梅花双雀図軸

伝馬麟筆 中国 南宋時代・13世紀
山本達郎氏寄贈

梅の梢に2羽の雀がとまっています。花びらに見られる丁寧なピンクのグラデーション、羽毛1本1本を表す柔らかな細やかな筆線が、画家の自然に対する鋭い観察眼を伝えています。また、ボキボキとリズムよく折れていく枝ぶり、ゆるやかなX字状にまとめられたつがいの組合せは、南宋時代の美的感覚を示しています。右上の「雉華室印」は、第6代將軍・足利義教(1394～1441)の所蔵印。室町幕府由来の「東山御物」として、日本の鑑賞界で愛され続けた、優美な逸品です。

(植松瑞希)

Pick up!

平成館

あの名品と通ずる、
特徴的な表情

埴輪 笠を被る男子頭部

11月26日(日)

考古展示室



埴輪 笠を被る男子頭部
古墳時代・6世紀
埼玉県熊谷市野原古墳出土

頭には円錐形の菅笠を被っており、
鍬を担ぐ農夫か、馬をひく人物(馬子)がモデルと考えられます。農夫や馬子は、埴輪になった人物としては比較的身分が低く、上半身のみで半身像で表現されます。馬の生産が盛んであった北関東では、馬子の埴輪は馬形埴輪とセットになってよく制作されています。当館を代表する作品のひとつである現在修理中の「埴輪 踊る人々」と一緒に本作品は野原古墳から出土しました。目と口を丸く開けるのが特徴で、「埴輪 踊る人々」の顔表現とよく似ています。リアルさを追求せず、素朴な表現なのは、埴輪生産が終わりに差し掛かった6世紀後半の特徴を表しているからでしょう。

(河野正訓)

法隆寺宝物館

創意に満ちて織りなされた
吉祥文様

重文 蜀江錦褥残欠 表裂

10月24日(火) 11月19日(日)

第6室 書跡・染織



◎蜀江錦褥残欠 表裂
飛鳥時代・7世紀

日本では、法隆寺に伝わった赤色を中心とした経錦*のことを蜀江錦と称してきました。古代中国の蜀(現在の中国・四川省)において、優れた錦が織られていたことに由来します。この作品では赤、白、青の3色を用い細やかな文様を織り出しています。敷物(褥)の表地であったと考えられ、赤地に抽象化された一对の花文や鳥文を収めた亀甲繫ぎを表します。囲う亀甲文にも葉や蔓の表現がみられ、細部にも工夫が凝らされています。7世紀から鮮やかな色を残す蜀江錦。緻密な織りと意匠にご注目ください。(沼沢ゆかり)

*さまざまな色に染めた、経糸の浮き沈みで文様を表す、古様な錦です。

黒田記念館

遊び心を垣間見る
若き日の自画像

自画像(トルコ帽)

9月24日(日)

黒田記念室



《自画像(トルコ帽)》
黒田清輝筆
明治22年(1889)

黒田清輝、23歳の自画像です。1884年からパリに留学していた黒田は、はじめは法律学校に通っていましたが、画家の山本芳翠、藤雅三、美術商の林忠正らと交流し、絵画を生涯の仕事とすることを決意します。油彩画修行を始めて間もない時期に描かれた本作品の斜め向きの構図には、レンブラント・ファン・レインによる肖像画からの影響が見て取れます。円筒形の帽子は、パリに向かう途中に停泊したアラビア半島の港町アデンで入手したもの。芸術家は変わった格好をしていると思われたものですが、黒田は画家になる前から、ちよつと風変わりなおしゃれを楽しむ青年だったのかもしれない。

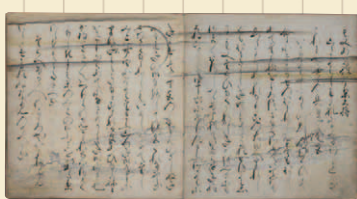
(東京文化財研究所・吉田暁子)

トーハクの調査研究 ②

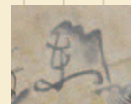
博物館の重要な使命のひとつである
「調査研究」。その一端をご紹介します。「月」がつかないだ、
新たな発見

今秋開催予定の特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」(4ページ)について、現在準備をしながら調査研究を進めているところです。今回、全国のご所蔵者より数多くご出品いただくため、それらの作品と当館から出品する作品との比較も行っています。

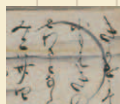
13〜14世紀の文学を書写した料紙装飾を調べたところ、この時期に共通する月の下絵を発見しました。銀泥で描かれたとても細い月で、当館所蔵の「松浦宮物語」にもありました。本特別展でご紹介するやまと絵の中にさまざまな月が登場しますが、この細い月も探してみてください。(恵美千鶴子)



◎松浦宮物語 鎌倉時代・13世紀
金銀泥で月と霞雲や波、波間の岩には葦手も描かれた美しい場面です



(葦手部分)



(月部分)

※特別展「やまと絵―受け継がれる王朝の美―」にて
11月7日(火) 12月3日(日)まで展示します。

4

茶の美術

-10/29日

◎志野茶碗 銘 振袖

美濃 安土桃山～江戸時代・16～17世紀
 胴部の篭(へら)削り、白い長石釉の下に見え隠れする薄の文様など見どころに富んでいます

**10/31日-12/3日**

唐物文琳茶入 銘 宇治
 中国 南宋～元時代・13世紀
 片桐石州、松浦鎮信所持
 松永安左門氏寄贈

3-3

 禅と水墨画
 —鎌倉～室町—
**9/20日-10/29日**

◎山水図

岳翁蔵丘(かくおう ぞうきゅう)筆
 室町時代・15世紀
 岡崎正也氏寄贈

10/31日-12/3日

◎故事人物図(書院の間)

伝狩野元信筆
 室町時代・16世紀
 旧大仙院方丈障壁画
 もと禅寺の障壁画。中国の著名な軍師である太公望を描いています



(部分)

5

4

3-3

3-2

3-1

2

特別1室

1-1

1-2

びんでん
便殿

案内 2階

流れ

3-2

 宮廷の美術
 —平安～室町—
**10/31日-12/3日**

◎特集「仏画のなかのやまと絵山水」(→5ページ)

平等院鳳凰堂壁画(模本) 日想観図(右部分)
 田中訥言模 江戸時代・19世紀
 原本:平安時代・11世紀 平等院所蔵

(部分)

**10/31日-12/3日**

◎古今和歌集切(卷子本)

藤原定実筆 平安時代・12世紀 森田竹華氏寄贈
 文様が蛸のように光ることから蛸箋(ろうせん)と呼ばれる中国製の料紙です

3-1

 仏教の美術
 —平安～室町—
**-9/18日(祝)**

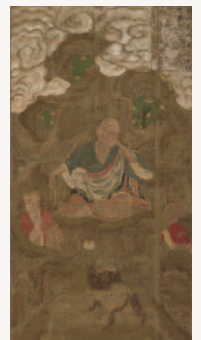
◎十一仏図

鎌倉時代・14世紀
 閻魔に代表される十王を仏の姿で表し、大日如来を加えた、死者を供養する仏画です

9/20日-10/29日

◎特集「仏画のなかのやまと絵山水」(→5ページ)

十六羅漢像(第七尊者) 平安時代・11世紀



1-1

-12/3日

◎人形装飾付異形注口土器

縄文時代(後期)・前2000～前1000年
 北海道北斗市茂辺地出土 落合治彦氏旧蔵
 前後左右に人の顔や体が表現された、儀礼のための土器です



◎袈裟褙文銅鐸

和歌山県日高町
 荊木字向山出土
 弥生時代(後期)・1～3世紀

1-2

-10/29日

◎興福寺鎮壇具 黒水晶玉

奈良時代・8世紀
 奈良市興福寺中金堂須弥壇下出土
 黒水晶で作られた珠です。財宝のひとつとして埋納されました

**10/31日-12/3日**

◎瑞花狻猊方鏡

奈良時代・8世紀
 京都市西京区山田桜谷町出土 荒木音次郎氏寄贈



2

10/3日-11/5日

◎法華経 方便品(竹生島経)

平安時代・11世紀



(部分)

国宝室

**11/7日-12/3日**

◎十六羅漢像(第六尊者)

平安時代・11世紀
 平安時代における和様の十六羅漢像。色紙形の蝶や鳥の下絵にも注目



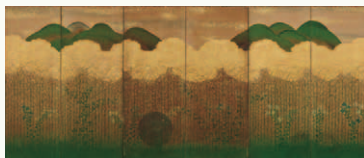
9/5(火)-12/3(日)

特集「近世のやまと絵—王朝美の伝統と継承—」(関連特集→16ページ)

9/5(火)-10/9(月)・(祝)

武蔵野図屏風

筆者不詳 江戸時代・17世紀
古くから和歌に詠われる名所である武蔵野のイメージを絵画化した作品です



(部分)

10/11(水)-12/3(日)

柳橋水車図屏風

筆者不詳
安土桃山〜江戸時代・16〜17世紀



(部分)

7

屏風と襦絵
—安土桃山〜江戸

-10/22(日)

金小札紅系中白威腹巻

安土桃山時代・16世紀



10/3(火)-12/3(日)

銅服 染分地銀杏雪輪散模様

安土桃山時代・16〜17世紀
吉岡隼人が徳川家康より拝領

石見銀山見立役・吉岡隼人が褒美として徳川家康のお肌付きの銅服を拝領したと伝わっています



5・6

武士の装い
—平安〜江戸

10/3(火)-12/3(日)

火消半纏

紺木綿刺子地人物模様
江戸時代・19世紀



10/24(火)-

終蒔絵大鼓胴

江戸時代・17世紀
伊藤甲子之助氏寄贈

中央に節があるのが小鼓との違いです。
歌舞伎囃子等で高い音を響かせます



8-1

暮らしの調度
—安土桃山〜江戸



9/5(火)-12/3(日)

特集「近世のやまと絵—王朝美の伝統と継承—」(関連特集→16ページ)



9/5(火)-10/15(日)

鏡売図

冷泉為恭筆
江戸時代・19世紀

長雨の日に、鏡売りの女が見事な和歌を持って訪れる『今昔物語』の話を描いています



(部分)

10/17(火)-12/3(日)

粟穂鶉図屏風

土佐光起筆 江戸時代・17世紀
光起が得意とし、土佐派が継承することになる鶉図を大画面に描いた貴重な作例です

8-2

書画の展開
—安土桃山〜江戸

-10/1(日)

縫箔(子方)

白地桐鳳凰
声桜雪持竹肩裾模様の

安土桃山時代・16世紀
奈良・金春家伝来

子どもが演じる際に用いた、華やかな刺繍と金箔で彩られた衣装です



9

能と歌舞伎

10/3(火)-12/3(日)

小忌衣

浅葱天鷲絨地菊水模様

江戸時代・19世紀
坂東三津江所用
高木キヨウ氏寄贈

大奥で活躍した女性の歌舞伎役者・坂東三津江所用。武将や貴人役の部屋着として用います



浮世絵

8/29(火)-10/1(日)

役者舞臺之姿繪・高らいや

歌川豊国筆
江戸時代・寛政7年(1795)
豊国の出世作。舞台上で見得のポーズをとる役者の全身像を描いています。



11/7(火)-12/3(日)

坐鋪八景・時計の晩鐘

鈴木春信筆
江戸時代・18世紀
中国の伝統的な画題である瀟湘八景のパロディとして、女性の日常を描いた作品です



衣装

-10/1(日)

帷子

黒麻地流水紅葉模様

江戸時代・18世紀
水の流れと紅葉で歌枕である龍田川の景色を表した、季節を先取りした夏の衣装です



10

浮世絵と衣装
—江戸

10/3(火)-12/3(日)

小袖 白縷子地枝垂楓笠模様

江戸時代・18世紀
古今和歌集の和歌をもとにしたデザイン。古典文芸が一般に広まった元禄期の流行です



15

歴史の記録

-10/15日

◎中山道分間延絵図

江戶幕府(道中奉行所)編
江戸時代・文化3年(1806) 浅草文庫旧蔵
江戸幕府が作った中山道の実測図です。
軽井沢・沓掛・追分の浅間三宿を含みます



(軽井沢宿部分)

10/17日-12/10日

◎温知図録 第1輯1

陶器之部 自一至二十六

博覧会事務局編
明治時代・19世紀



14

特集

-10/9月・祝

「日本初のチベット探検一僧河口慧海の見た世界」(→6ページ)

菩薩立像

14~15世紀
宮田恵美氏・
上原スミ氏・
水谷マサ氏
寄贈



檀木釈迦如来立像

高村光雲作
昭和3年(1928)
宮田恵美氏・
上原スミ氏・
水谷マサ氏寄贈



15

14

13-3

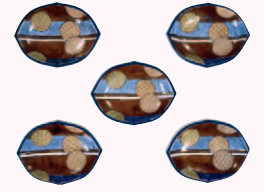
陶磁

**-12/3日**

◎鏤絵観鵬図角皿

尾形光琳・深省合作 江戸時代・18世紀

尾形深省(乾山)と兄・光琳の合作。絵を
光琳が、裏の銘文を乾山が手掛けています

**10/3日-12/3日**

◎色絵丸文菱形皿

鍋島 江戸時代・17世紀

13-3

13-2

13-2

刀剣

9/26日-12/3日

◎太刀 古備前包平(名物 大包平)

古備前包平 平安時代・12世紀

その雄大な造形から日本刀の横綱と称される名刀です



◎短刀 粟田口吉光(名物 毛利藤四郎)

粟田口吉光 鎌倉時代・13世紀



11

彫刻

9/20日-12/24日

◎毘沙門天立像

平安時代・応保2年(1162)頃
奈良・中川寺十輪院持仏堂伝来
川端龍子氏寄贈

衣やよろいの美しい彩色文様。平安時代の洗練された美意識を伝えます



◎慈恩大師坐像

平安時代・11~12世紀

12

漆工

-10/1日

◎橋千鳥蒔絵硯箱

室町時代・16世紀 松永安左工門氏寄贈

**10/3日-12/24日**

◎瓜蒔絵角赤手箱

江戸時代・17世紀

16世紀以降に登場した手箱の一種。
金と朱の組み合わせが華やかです



13-1

金工

-11/12日

◎金銅火焰宝珠形舍利容器

鎌倉時代・13~14世紀

密教で使われた特異な形状の舍利容器で、神秘的な趣を湛えています



◎南天柄鏡

銘「平安城住青盛重」
江戸時代・18世紀
徳川頼貞氏寄贈

本号のトピック

「東京国立博物館アンバサダー」のご紹介

当館の魅力と文化財の価値をより幅広くお伝えるため、さまざまな業界で活躍されている方々を「東京国立博物館アンバサダー」に任命しました。当館の広報活動にご協力いただく予定です。ご期待ください。

池坊 専宗(いけのぼう せんしゅう) 華道家、写真家

岸田 雪子(きしだ ゆきこ) ジャーナリスト、東海大学客員教授

隈 研吾(くま けんご) 建築家、東京大学特別教授・名誉教授

三枝 成彰(さえぐさ しげあき) 作曲家

デービッド・アトキンソン 株式会社小西美術工藝社代表取締役

宮田 亮平(みやた りょうへい) 金工作家、前文化庁長官、元東京藝術大学学長

山崎 美貴(やまざき みき) 文学座俳優

行正 り香(ゆきまさ りか) 料理研究家、教育コンテンツプロデューサー

DINO-A-LIVE 株式会社 ON-ART (金丸賀也、小塚明美)

※2023年7月現在 50音順、敬称略



「東京国立博物館アンバサダー」の
池坊専宗氏(左)と、館長の藤原誠(右)

応挙館で、カフェとアクティビティを楽しむ TOHAKU茶館

当館の庭園には5棟の茶室があります。そのうちのひとつ、「応挙館」は、現在の愛知県大治町に寛保2年(1742)に建てられ、品川への移築を経たのち、当館に寄贈された茶室です。室内の障壁画は、円山応挙が眼病で滞留していた際に揮毫したものであると伝えられています(現在は複製を設置)。

普段は内部を一般公開していない応挙館ですが、日本文化を体験できる「TOHAKU 茶館」を期間限定でオープンします。茶館では、江戸時代の禅僧白隠がその著作に遺した呼吸法に基づく「ZEN呼吸」や、5分で着られる「KIMONO体験」などのアクティビティ(いずれも有料)を体験できます。

また、カフェスペースでは日本酒「新政」や和菓子などを販売します。特別な体験を楽しめる「TOHAKU 茶館」へ、展覧会ご観覧の合間やご休憩にぜひお立ち寄りください。

期間：2024年1月28日(日)まで開催中

営業時間：10:00~16:30(ラストオーダー16:00)

*休業日は博物館の休館日に準じます。ほか特定の休業日あり。

*営業時間が変更となる場合がございます。

会場：応挙館

料金：アクティビティごとの事前予約チケットが必要です。ローソンチケットやオンライン予約サイト等で販売しています。

*当日の入館料が必要。事前予約チケットでは、入館料とセットになったチケットを販売しています。

*当日の空き状況により予約なしでも参加可。

※開催期間中に限り、庭園の開放時間が9:30~17:00となります。

※イベントの詳細は当館ウェブサイト、または「TOHAKU 茶館」公式ウェブサイト(<https://chakan-tokyo.com/ja>)をご確認ください。



「TOHAKU茶館」外観



「ZEN呼吸」の様子

-10/22(日)

瓶

沖縄本島
第二尚氏時代・
19世紀



10/24(火)-12/3(日)

イナウ(儀礼用の木幣)

北海道アイヌ 19世紀
ウィーン万国博覧会事務局引継

神に感謝の言葉
と品々を贈り、
恵みを願う祭で
使う神具です



16

アイヌと琉球



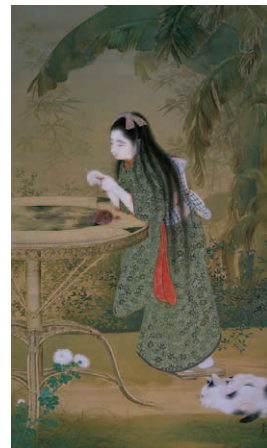
18

近代の美術

9/12(火)-10/22(日)

秋苑

寺崎広業筆 明治32年(1899)
奈良淳一郎氏寄贈
菊や萩の秋の風情と、物思いにふける
かのように毛糸を編む少女の姿



9/12(火)-12/10(日)

白磁螺牡丹浮文大瓶

三代清風与平作 明治25年(1892)
シカゴ・コロンブス世界博覧会事務局



東洋館5室 **加彩楽人**

中国 唐時代・7～8世紀 横河民輔氏寄贈

唐時代、死後の世界を豊かに過ごすため、人や動物、生活道具などをかたどったやきものが墓に納められました。墓の主は楽団を傍らに宴を楽しんでいることでしょう。(三笠景子)



東洋館10室 **詩会風俗図軸** (部分)

李尚権筆 朝鮮 朝鮮時代・18～19世紀
小倉コレクション保存会寄贈

のどかな田園での文人たちのパーティーです。村の老若男女が興味津々で見物しています。

(植松瑞希)

博物館でアジアの旅

アジアのパーティー

毎年恒例の「博物館でアジアの旅」。記念すべき10年目を祝す宴として、今年のテーマは「アジアのパーティー」です。

雅な人びとの詩会のひと時や音楽の集いを描いた作品、アジア各地の宴に用いられた酒器や祭器などが、秋の東洋館を盛り上げます。どうぞお楽しみください。

9月26日(火)
→10月22日(日)
東洋館



東洋館13室 **白地花唐草人物文様更紗**

インド北西部 19世紀

叙事詩『ユースフとズライハ』の宴の場面。上段左から2番目の人物、預言者ユースフの美しさに目を奪われ、女性たちはオレンジの皮を剥くはずが誤って手を切ってしまう。

(沼沢ゆかり)



東洋館3室 **葡萄収穫**

パキスタン・ガンダーラ クシャーン朝・2世紀

酔っぱらって支えられているのは豊稔と葡萄酒の神、ディオニユス。収穫を祝う饗宴図の浮彫です。(原田あゆみ)

博物館でアジアの旅 関連企画

アジア旅スペシャルトーク

「アジアのパーティー」をテーマに、展示中の作品について研究員による解説を行います

◆「中国石仏はパーティーの賜物!？」

10月3日(火) ①11:00 ②13:30 (各回約30分)
児島大輔(日本・東洋彫刻)

◆「パーティーへ行こう!～新羅人のおめかし～」

10月17日(火) ①11:00 ②13:30 (各回約30分)
玉城真紀子(東洋考古)

会場: 東洋館地下1階 TNM & TOPPAN ミュージアムシアター 定員: 各回90名(先着順)
※開場は各回15分前です。 ※同日の解説は各回同じ内容です。

ボランティアによるガイドツアー

「博物館でアジアの旅」にあわせて、東洋館のガイドツアーや、構内のアジアに関連する樹木を紹介するガイドツアーなどを企画しています。詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。



*すべて参加無料(ただし当日の入館料が必要)、事前申込不要です。

*「博物館でアジアの旅 アジたびマップ2023」を期間中、東洋館インフォメーションで無料配布しています(数に限りがあります)。また、当館ウェブサイトにも掲載します。

*その他、オンラインギャラリートークを当館YouTubeチャンネルにて配信予定です。詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

みどりのライオン



10月7日(土)は留学生の日です

日本で学ぶ外国人留学生、ALT(外国語指導助手)および、その同行者1名は総合文化展が無料となります。さらに、館内各所でボランティアによる各種無料ガイドツアーをはじめ、さまざまなイベントも実施されます。お誘い合わせのうえ、ぜひご来館ください。

〇ボランティアによるイベント

展示室ガイド、根付をつくるワークショップなどを企画しています。やさしい日本語で行います。また、本館2階で英語による作品紹介も計画中です。詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

〇トーハク笑楽座 TOHAKU Show-RAKUZA

日本の伝統的な寄席演芸のうち、多彩な伝統芸とイラスト字幕を使った落語がご覧いただける公演です。英語通訳による司会進行で日本語を勉強中の留学生にもお楽しみいただけます。

時間: ①11:00~12:00 ②13:30~14:30 (①②は同内容、開場は各回30分前)

場所: 平成館大講堂

参加方法: 事前申込不要。当日会場へお越しください。(途中入退場可)

参加費: 無料(ただし日本の学校に所属する留学生、ALTおよび、その同行者1名以外の方は、当日の入館料が必要)

主催: 独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁、公益社団法人落語芸術協会



ボランティアによる事業

令和6年度東京国立博物館ボランティア募集のお知らせ

令和6年度から活動を開始するボランティアを約50名募集します(任期3年間を予定)。募集要項は11月頃に当館ウェブサイトに掲載予定です。



ボランティア活動の様子

トーハクボランティアデー 2023

12月2日(土)・3日(日)に、当館でのボランティア活動を広く知っていただくイベント「ボランティアデー」を開催予定です。

*お問合せ: TEL03-3822-1111(代)

ボランティア室

*いずれも詳細は、当館ウェブサイトをご覧ください。



ボランティアデーの様子(2022年)



トーハクキッズデー

大好評だった7月の「キッズデー」に続き、9月に小規模の「プチ・キッズデー」を行います。「手遊び」や「紙芝居」など、お子様にも参加いただける、楽しい催しを企画しています。秋のトーハクを、ぜひご家族一緒にお楽しみください。

実施日: 9月23日(土・祝)

対象: 0歳~中学生とその保護者(小・中学生だけの参加可)

入館料: 一般1000円、大学生500円

*高校生以下は無料、特別展や有料イベントは別途料金が必要です。

*イベントの詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。



キッズデーの様子(2022年)

※掲載されている催し物につきましては、今後、予告なく変更・中止する場合がございます。当館ウェブサイト等でご確認ください。また、動画配信については、公開済、公開予定のコンテンツを掲載しています。



みどりのライオン
オンライン



お知らせ

本館19室 工程見本展示^{おしだしづつ}「押出仏ができるまで」

9月12日(火)~2024年5月19日(日)(予定)
本館19室 みどりのライオン体験コーナー

押出仏は非常に薄い仏像です。銅板を型にのせ、たたくことで造形をうつし出します。日本では7世紀から8世紀に流行し、寺院の壁や厨子におさめられました。本コーナーでは、押出仏のつくり方について、当館所蔵の重要文化財「阿弥陀三尊および僧形像」を例に、制作工程を復元し、ご紹介します。



押出仏の復元見本品

※重要文化財「阿弥陀三尊および僧形像」は法隆寺宝物館第2室にて展示しています。

オンライン

ギャラリートーク

「水墨画を見るポイントー山水画に描かれた人物」

講師: 救仁郷秀明(日本絵画)

水墨画には山水、人物、花鳥という3つのジャンルがあります。今回はそのうち、山水画に描かれた人物とその表現を中心に解説します。



「日本における磁器の誕生と色絵の始まり」

講師: 今井敦(日本陶磁)

朝鮮、中国からの技術導入により、江戸時代初頭に九州肥前有田で始まった初期の伊万里焼を例に、模倣と創造の不可離の関係を紹介します。



「河口慧海のチベット探検」

講師: 西木政統(日本・東洋彫刻)

明治34年(1901)に日本人として初めてチベットの都、ラサに到達した僧、河口慧海(1866~1945)。遺族からの寄贈品を中心に、その道のりをたどります。

かわぐち え かい
河口慧海請来風俗資料
19~20世紀

宮田恵美氏・上原スミ氏・水谷マサ氏寄贈

※本館14室にて、10月9日(月・祝)まで展示
(→6、10ページ)



ご自宅等でお楽しみいただけるよう
YouTubeによる動画を配信しています。

※月例講演会は当館大講堂にて実施しております。
詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。



東京国立博物館
YouTubeチャンネル

仲秋東博寄席 2023

当館恒例の落語企画を、今年度は秋に開催します。金原亭馬生師匠とその一門のみなさんによる話芸で、粋なひとときをお過ごしください。

日時：9月23日(土・祝)

開演13:30(開場13:00)

会場：平成館大講堂

出演：金原亭馬生・金原亭馬治・金原亭馬玉 他

料金：2,500円(全席自由)



*公演当日に限り、本公演のチケットで総合文化展をご覧いただけます。

〈チケットのお求め方法〉 ※なくなり次第終了

- ・当館正門チケット売場(窓口、開館日のみ、閉館の30分前まで)
- ・ローソンチケットによる販売(Lコード：34877)

ウェブサイト：<https://l-tike.com/>

直接購入：ローソン・ミニストップ店頭Loppi

*ローソンチケットのご利用方法は上記ローソンチケット公式サイトをご覧ください。

公演内容に関するお問合せ：

TEL 03-3822-1111(代) 総務課渉外開発担当

*月～金曜日の9:30～17:00(土・日・祝休日は除く)

*イベントの詳細は、当館ウェブサイトでご確認ください。

故佐野文一郎元館長ご令室よりご遺贈をお受けしました

平成5年1月から平成9年6月まで当館館長を務めた故佐野文一郎氏(平成29年12月逝去)のご令室、佐野弥生様が令和4年1月に逝去されました。故人のご遺志を受け、遺言執行人となられた久保庭伊佐男様ならびに佐野元館長ご令妹米田和子様にご尽力いただき、多大なるご寄附を頂戴しました。頂いたご寄附は当館の研究基盤強化・人材育成等に活用し、その成果を広く公表し後世に伝えて参ります。

「埴輪 踊る人々」の修理、進行中

「踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト」のご寄附により、「埴輪 踊る人々」の修理が外部の修理工房で進められています。修理の進捗状況をウェブサイトで詳しくご紹介しています。ぜひご覧ください。



当館ウェブサイト
「修理の進捗について」ページ

東博の研究、産業界から評価

和田浩(当館保存修復課長)が日本包装学会学会賞を受賞しました。長年にわたり、文化財の輸送環境についての研究をしており、一連の「文化財保護のための安全輸送・梱包設計に関する研究」による成果が高い評価を受け、このたびの受賞となりました。今年度からは、大型研究プロジェクトに取り組みます。

特別展チケットプレゼント

特別展「本阿弥光悦の大宇宙」

(2024年1月16日(火)～3月10日(日)→3ページ)無料観覧券(10組20名様)をプレゼントします。締切は12月11日(月)必着。

*プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、ならびにこの号で1番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館 広報室「ニュース9-11月号」プレゼント係

休館・閉室情報

12月19日(火)は電気設備等保守点検のため、臨時休館します。

12月25日(月)～2024年1月1日(月・祝)は休館します。

また、展示室の一部を以下の通り閉室します。

東洋館8室：10月24日(火)～10月29日(日)

本館特別3室：12月12日(火)～12月24日(日)

本館2階、本館13室：12月5日(火)～12月24日(日)

法隆寺宝物館のレストランが再開しました

法隆寺宝物館1階の「ホテルオークラ ガーデンテラス」が2023年6月から営業を再開しました。お食事やデザートに加え、テイクアウトメニューも取り揃えています。ご観覧の合間のランチやご休憩にぜひご利用ください。

営業時間：11:00～16:00(ラストオーダー15:20)

『智証大師円珍関係文書典籍』が ユネスコ「世界の記憶」に登録決定

この度、当館と滋賀・園城寺が所蔵する作品全56件で構成された『智証大師円珍関係文書典籍』が、ユネスコ「世界の記憶」(Memory of the World)に登録されました。

第18回 台東区の伝統工芸職人展

台東区内で現在も活躍する伝統工芸職人の製作実演を行います。下町の歴史と風土の中で受け継がれてきた職人の技を間近に感じてみてはいかがでしょうか。



昨年の様子

日時：9月26日(火)～10月1日(日)

会場：平成館ラウンジ

料金：無料(ただし、当日の入館料が必要)

お問合せ：TEL 03-5246-1131 台東区産業振興課伝統工芸担当

TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

VR作品『DOGU 美のはじまり』

10月1日(日)まで

これまで日本で発見された土偶は約2万点に上りますが、そのうち国宝に指定されているのはわずか5点に過ぎません。それら5点の国宝土偶が、本作で一堂に集結。VR技術で美しく再現された土偶の姿をお楽しみいただけます。縄文人の精神性、造形力、そして美意識が遺憾なく表現された国宝土偶を通して、そこに込められた想いを感じてみてください。



料金：一般・大学生・高校生：600円、小学生・中学生：300円、未就学児・障がい者とその介護者各1名は無料(1作品/1回あたり)、別途入館料が必要です。

上演時間：約35分

*夏休み子どもウェルカムキャンペーン 9月24日(日)までの期間、小学生は無料です。
*開演時間までにシアター前券売機にてチケットをお買い求めください(当日券のみ)。

〔予告〕VR作品『冬木小袖 光琳が描いたきもの』

10月4日(水)～12月24日(日)

*演出・スケジュール等は、都合により変更もしくは休演となる場合がございます。

*詳細、最新の情報はウェブサイト(<https://www.toppa-vr.jp/mt/>)をご覧ください。

9・10・11月の休館日情報

休館日	9月	10月	11月
	4日、11日、19日、25日	2日、10日、16日、23日、30日	6日、13日、20日、27日

※11月27日(月)は特別展「やまと絵—受け継がれる王朝の美—」(平成館)のみ開館します。

※開館時間、休館日等の最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。

◆東京国立博物館利用案内

総合文化展観覧料金 一般1,000円、大学生500円

●事前予約は不要です。

※混雑時には展示施設前でお待ちいただく可能性があります。

※特別展の入館方法は展覧会ごとに異なります。

詳細は展覧会公式サイトをご確認ください。

●障がい者とその介護者各1名は無料。

満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。

●敬老の日(9月18日<月・祝>)、文化の日(11月3日<金・祝>)は、総合文化展のみ観覧無料。

*詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

最新情報は、ウェブサイト、Facebook、Twitter、Instagram、メールマガジンで!

東京国立博物館ウェブサイト
<https://www.tnm.jp/>



◆東京国立博物館賛助会員(寄附会員制度)募集のご案内

東京国立博物館の運営の趣旨にご賛同いただける団体・個人向けの寄附会員制度です。賛助会費(ご寄附)は、文化財の購入、修理、教育普及事業など、博物館運営に充てられます。寄附金控除の対象になります。

【主な特典】特別展内覧会へのご招待 など

【年会費】〈団体〉プレミアム会員 1,000万円以上、
特別会員 100万円(1口)、維持会員 20万円
〈個人〉プラチナ会員 100万円以上、
ゴールド会員 20万円、シルバー会員 5万円

【申込方法】会員受付窓口、ウェブサイト(クレジットカード決済)、
銀行振込

*詳細は担当までお問合せください。

◆東京国立博物館会員制度

東京国立博物館では、1年間のうち何度でもご来館いただける会員制度をご用意しております。



会員制度の詳細
はこちら

友の会

発行から1年間有効 年会費:7,000円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・
平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展
観覧券を3枚と、ミュージアムシアター観覧券1枚、ショッ
プ・レストラン割引などさまざまな特典があります。

*本誌の郵送をご希望される場合は、別途「東京国立博物館ニュース」の定期購読をお申込みください。

*2022年10月18日(火)~2023年12月30日(土)の間に期限切れとなる東京国立博物館の特別展観覧券(会員制度特典)は、2023年12月31日(日)までご利用いただけます。

*特別展が事前予約制の場合は、事前予約が必要となります。

国立博物館メンバーズパス(4館共通)

発行日から1年間有効 年会費:一般2,500円、学生1,200円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・
平常展を何度でも観覧可能です。

東京国立博物館ニュース定期購読

年会費:1,000円(1年分)

【特典】東京国立博物館ニュースを年4回、1年分ご指定の場所に送付いたします。

*次号(12-2月号)より送付をご希望の場合、締切は2023年11月10日(金)です。

○申込方法

1. 会員受付窓口

当館正門前の会員受付窓口で即日発行し、当日からご使用いただけます(現金またはクレジットカード、電子マネー)。

2. ウェブサイト

専用申込フォームからお申込みください(クレジットカードまたは郵便振替<振替用紙を送付>)。

3. 郵便振替

●振替用紙に①種別(友の会、4館共通、ニュース)、②区分(一般、学生<4館共通のみ>)、③メールアドレス(メールマガジン希望者のみ)、④郵便番号、⑤住所、⑥氏名(ふりがな)、⑦電話番号を通信欄・ご依頼人欄にご記入の上、下記口座までお振替ください。
加入者名:東京国立博物館会員制度
口座番号:00140-3-791791

●友の会または国立博物館メンバーズパス(4館共通)にお申込みの方で、「東京国立博物館ニュース」の送付をご希望の方は、振替用紙に『東京国立博物館ニュース定期購読希望』とご記入のうえ、各会費に追加料金として1,000円を加えた金額をお振替ください。

●振替用紙の半券が領収書になります。有効期限終了まで保管してください。

●振替手数料はお客様負担となります。

●ご入金確認日より会員証等がお手元に届くまで、2週間程度かかります。

*一度納められた料金の払い戻しはいたしません。

*お申込みに際してご提供いただいた個人情報は、当該目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

○お問合せ

電話 03-3822-1111(代) / FAX 03-3821-9680

総務課渉外開発担当

*月~金曜日の9:30~17:00(土日・祝休日は除く)

表紙の名品

2023年9月・10月・11月号

重要美術品 柳橋水車図屏風

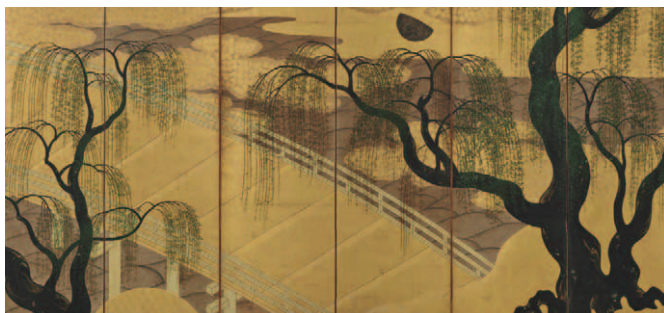
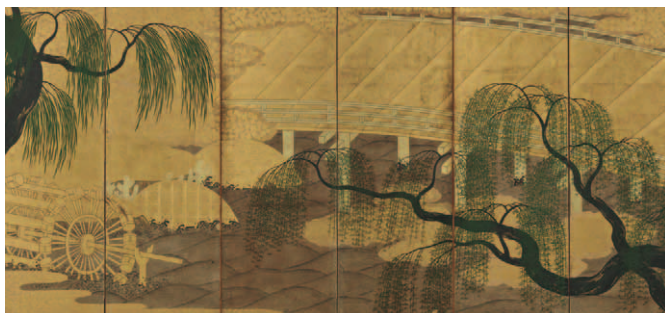
やまと絵

10月11日(水)～12月3日(日)

本館7室

(特集「近世のやまと絵—王朝美の伝統と継承—」)

煌びやかな装飾と優れた技巧。移り行く宇治の時を彩る



○柳橋水車図屏風 筆者不詳 安土桃山～江戸時代・16～17世紀

六曲一雙の画面いっぱい大きく架けられた黄金の橋。空には銀の月がかかり、川岸には柳や蛇簾、水車が描かれています。この組み合わせは、古来和歌に詠まれた名所として知られる宇治を想起させるモチーフであることから、本作品も宇治の風景を描いたものと考えられます。

柳の葉を見ると、画面右側では短く跳ねるような若葉ですが、左側では青々と茂る様子が見て取れ、一雙の中で、季節が春から夏へと移り変わっていることがわかります。また、画面に流れる金の雲や霞には、正方形や三角形の金の切箔や砂子が撒かれ、孤を描くような水流の線は銀で描かれていると考えられます。さらに、蛇簾や水車は胡粉という貝殻を砕いた絵の具を厚く塗って盛り上げ、その上から金箔を貼ることで立体感を出すなど、工芸品との親近性も感



現在、月は黒く見えますが、描かれた当初は銀色に輝いていたことでしょう

じさせる、とても装飾的で豪華な作品に仕上がっています。安土桃山時代を代表する画家のひとりである長谷川等伯(1539～1610)や長谷川派の画家たちによって多く描かれた画題で、本作品の他にも、類品は30件以上現存しており、当時とても人気の画題であったことがうかがえます。

本作品をはじめとする安土桃山～江戸時代にかけて描かれた近世やまと絵をまとめて紹介する特集を、秋の特別展「やまと絵—受け継がれる王朝の美—」(10月11日(水)～12月3日(日))に開催します。

※特集「近世のやまと絵—王朝美の伝統と継承—」(9月5日(火)～12月3日(日))は本館7室、8・2室、特別2室で開催します。

月3日(日)(↓4ページ)にあわせて開催します。古代、中世やまと絵の伝統を継承しながらも、近世の新たな美意識を加えて制作された近世やまと絵、および関連する書跡作品を紹介し、その魅力に迫るものです。特別展と合わせてご覧いただくことで、継承され変奏していったやまと絵800年の華麗な歴史を通覧することが可能となります。この機会をぜひお見逃しなく。

(大橋美織)